

# 家庭教育通信

第7号 平成21年4月11日発行

## <テーマ> 自立へのステップ

### 友だち100人できるかな

この時期、新しい帽子やかばんを身につけた新入園児や一年生をあちこちで見受けます。これからどんな出会いが待っているのか。ワクワクドキドキしているのは子どもたちだけではないでしょう。

親にとっても、子どもが新しい世界に入っていくことは、楽しみであるとともに心配でもあります。

### 始まりは二人から

入園や入学という大きな節目でなくても、子どもは未知のことに出会いながら成長しています。子どもはどうやって人や環境とかかわっていくのか、赤ちゃんの頃からの心の発達をたどってみましょう。

赤ちゃんは大人から世話を受けるだけの受身的な存在に思われがちです。けれども実際には生まれて間もないときから、敏感に周りを感じ取っています。また自らいろいろなサインをだして、大人からそのときの自分の欲求にフィットするかかわりを引き出そうとします。

求めていた行動が相手から得られると、人への信頼感が生まれます。それが一番身近な人（多くは母親ですが）への愛着になります。

世界との交流は、この二人のつながりが土台となります。

### 次の扉を開くために

一人で移動できるようになると、日々新しい人やものと出会い体験を広げていきます。

この時期の子どもには未知の状況に置かれたとき、親の表情や反応を確かめてから自分のかかわり方を決める『参照行動』が見られます。

親の表情に安心を読み取れば先に進み、不安を感じれば踏み止まります。二者関係で育った愛着を基にして、自分の行動を調整できるようになるのです。それとともに人と共感することを覚えます。

### 子どもにとっての安全基地

さらに言葉を使えるようになると、子どもは飛躍的にかかわりを広げていきます。

そのまま親から離れていくように思えるのですが、やっぱり不安で戻ってくる場合があります。そんなとき、親が安全基地となってしっかり受け止めてあげると、子どもはまた自信を取り戻して新たな探索に出かけていくことができます。

行きつ戻りつを繰り返しながら、安心感を保てるようになると、徐々に外の世界へと独り立ちしていくのです。

新しい出会いが待っている春、好奇心いっぱい歩き出す子どもの背中をじっと見守って、振り向いたときには笑顔で手を振ってあげたいですね。

（臨床心理士 井上 万理子）

[問] 江東区教育委員会事務局課社会教育担当係

(3647)9676